

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	有限会社 ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	有限会社ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成21年11月29日	評価結果市町村受理日	平成22年2月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル	印
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号	
訪問調査日	平成21年12月15日	評価確定日 平成22年1月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・施設の駐車場の空き地を畑にし、利用している。・夏祭りや敬老の日に地域の方々や家族の方々に、共にイベントを楽しんでいる。  
 ・イベント毎の外出支援あり。・毎日のように散歩して、外気を吸っていただき季節を感じてもらっている。・医療機関との連携が充実している。  
 ・利用者とスタッフが協力して掃除、洗濯、食事の準備、後片付けをしている。・その人らしい暮らしと尊厳を保っている。・日曜日以外の入浴の実施。・地域ボランティアの活用。・おやつタイムが近所の喫茶店だったりする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの周りには田んぼがあり、田植えや稲刈りなどで四季を感じる事ができ、空気も綺麗でのんびりとしている。駐車場の空きスペースに畑を作り、季節の野菜を植え、水やりや草取りをして収穫を楽しんでいる。収穫した野菜は食卓に出され、新鮮で旬の物を食べることができる。天気の良い日はなるべく散歩に出かけ、月に1回の外出支援や個別支援を行っている。職員は入居者のその人らしさを大切に支援に努め、日曜日以外毎日入浴することができ、入居者は好きな時間に入り、清潔が保たれている。入居者の歩けるようになりたいとの希望に対し、毎日職員が見守る中、手摺に捕まり車椅子から立ち上がりの練習をしている。また、食堂のテーブルで卓球を行なう時は、能力に応じてやり方を代え、その人に合った対応で皆楽しく行っている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
			実践状況	実践状況	
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員が日々の中で話し合い、会議等を通じて実践につなげている。月に1度ミーティングを行い、それまでに気づいたこと、衰えてきている部分を話し合っている。	開設時につくられた理念が玄関に掲げられている。職員は家庭的なホームで一人ひとりの生活リズムを大切に、いつも安心して暮らしていけるよう理念を念頭に支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所の行事には、地域の方に参加してもらっている。地域神社の草取りに参加している。ボランティアによりレクリエーション協力も行われている。老人会や自治会との交流あり。	町内会に加入して、花祭りや草取りなど地域住民との交流を図っている。散歩時には挨拶を交わし、野菜や花などを頂くこともあり、毎月「日陽だより」を回覧している。ホーム主催の夏祭りにお店やゲーム、盆踊りなど行い、地域の方100名位の参加があり、入居者、家族、職員皆で楽しんだ。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭りを開催し、地域の方に参加してもらっている。天候のよい時は利用者様を散歩にお誘いし、ホームの存在、利用者の顔を地域の方に知られており、なじんでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に推進会議を開催し、その内容を書面回覧にて確認し、サービスの向上に努めている。定期的に会議を行いスタッフと情報共有している。	会議では行事報告や地域に寄り添うには、地域に発信するにはなどを議題にしている。メンバーから意見や助言を得て、地域から必要とされるホームづくりに取り組んでいる。メンバーからのアドバイスで「日陽だより」の回覧が実現することになった。	運営推進会議はいろいろな立場の方が参加して、約2カ月ごとに開催しているが、会議事録が作成されていない。今後はどんなことが話し合われたか議事録を作成し、家族、メンバー、職員などが知ることができるよう取り組みに期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	代表は常に区の担当者と連携を密に取っている。市との協力得られている。一般スタッフまでは協力関係できていない。	代表が毎月手続きで区役所を訪問している。その際に事業所の様子や情報収集、雑談など行い積極的に連携を図っている。港区の連絡協議会に参加し、役所の職員や他の事業所と交流を図っている。また、介護フェアに入居者の作品を出展したことがある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。帰宅願望のある方に対しては玄関施錠は必要である。利用者の希望があれば、すぐに開け、スタッフが付き添い辺りを散歩している。	身体拘束のマニュアルがあり研修も行っている。玄関は不審者が入ってきた時に、入居者が不穏になるのではとの思いから、安全確保のため常に施錠している。しかし、入居者の希望や出て行きたそうな様子を察知したら、職員は鍵を開け一緒に出かけている。	身体拘束の内容や弊害について理解されているので、今後は安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するための工夫を職員で話し合い、施錠が常態化しないことを期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内にて虐待は有り得ない。今後も防止に努めたい。スタッフ同士で話し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内において利用者の自立支援を行っている。制度について学ぶ機会ない。研修の機会があれば参加したい。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の方に十分説明を行い、不安や疑問が生じた場合も納得していただくよう説明を行っている。家族からの理解、納得、得られている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	代表がこの家族にきめ細かく面談し意見を伺っている。反映されている。家族会議を定期的に関き、意見を聞き入れている。	家族参加の行事や家族会議の時に、家族から意見や要望を聞いている。また、家族の訪問時に代表や職員は、困っている事や不安なことなど聞くよう心がけている。家族アンケートにも「職員はここにこと話してくれる」等、評価を得ている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで意見交換している。「何でもノート」を作り、気が付いたことはどんなことでも書くようにしている。代表は職員の意見に耳を傾けている。	毎月のミーティングで意見を聞くようにしている。代表はいつでも話を聞き、聞けることは受け止めている。入居者にとってどうしたら良いか現場職員の意見や提案を取り入れてくれる。勤務シフトについても配慮している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間など、話し合いをし、良い環境にしてもらっている。代表は努めていると思う。就業規則はあるが守られていない。交代性勤務のため、休憩時間が取れない。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員までは行えていない。日々の業務をこなすことが精一杯で、研修を受けるのは現状では難しい。職員の研修はあまり進められていない。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修で知り合った方々とネットワーク作りしている。日々の業務をこなしていくのが精一杯で同業者との交流を図るのは難しい。個人的にはあるが事業所としての交流は無い。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と積極的に談話し、信頼関係が築けるよう努めている。日常会話の中に話しを聞き、関係づくりに努めている。傾聴し、受容している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族会議や面会、体験入所の時などに家族の要望に耳を傾け信頼関係を築くようにしている。家族からの電話や来訪に対して親身に取り組んでいる。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービス利用等を考え実行している。診療所との連携を取っており、往診を定期的に行い安心して生活が出来るよう支援を行っている。代表が家族と話しをし、スタッフは報告書を確認している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	声掛けを大切に、ともに生活していく家族のように接する努力をしている。楽しい思い出作りに努め、共に過ごしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも無理のないようホームに来所していただく。病院受診は家族に対応してもらう等工夫している。家族に本人の状況を伝えている。代表、スタッフは努力している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方の来所や、希望の場所への外出が出来るよう努めている。以前入所していた方がホームに遊びに来ることを温かく受け入れている。	入居前から利用している店に化粧品を買いに行く人、親戚の定期的な訪問を楽しむ人、携帯電話で友人との会話や泊旅行に行く入居者がいる。職員は一人ひとりの生活習慣や、かけがえのない人との繋がりを継続できるよう支援している。退居した方も月に数回遊びに来て、入居者と楽しい一時を過ごしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	話がかみ合わないときは、スタッフが中に入り利用者同士の関係が壊れないように支援している。個人の良いところを意識的に褒めている。		
22		関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば支援に努めている。代表が努めている。きちんと位置づけしてやれていない。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や様子から本人の希望や意向を把握するよう努めている。ミーティング等で話し合いをし、把握に努めている。本人の習慣を大切に、支援に努めている。	日々の関わりの中で職員は入居者に寄り添い話を聞くようにしている。マンツーマンの入浴時ではゆっくりと話ができ、本音で話をする入居者が多い。把握が困難な場合は、日常生活で何をしてほしいのかを常に考えながら支援し、レクリエーションや買い物時の行動や表情から汲み取り把握している。職員はミーティングで入居者一人ひとりの思いや意向の情報の共有を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に基本情報として詳しく話しを聞き、本人にとって健康的で馴染めるようこれまでの経過を把握している。 全員で確認し、情報を共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護経過記録をつけ現状把握に努めている。個人記録に日常生活状況を記入し、スタッフ全員で確認し、情報を共有している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開催し、その結果を踏まえて介護計画を作成している。カンファレンスで意見を聞いて作成している。	入居者の身体、生活状況、医師の往診状況を踏まえ、本人の思いや家族の要望も取り入れ、介護計画を作成している。カンファレンスと、定期的なサービス担当者会議で見直し、現状に即した介護計画になっている。また、状態の変化や本人、家族の要望に応じても見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日常生活状況を記入し、スタッフ全員で確認し、情報を共有し介護計画を作成している。申し送りや、申し送りノートの活用をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月のミーティングにて対応している。家族会議、推進会議にて実行されている。その都度対応しているが多機能化に取り組んでいるとはいえない。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方が来所し、歌や民謡、踊り、落語等を楽しんでいる。慰問等は積極的に来て頂いている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人と家族の希望を尊重し、医療を受けられるよう支援している。診療所との連携をとっており、継続的に往診を行い支援する環境が整っている。	入居時にホーム協力医か入居者がかかりつけ医を選択している。かかりつけ医への通院は家族が行い、受診時は医師と「往診・通院状況報告書」を交わすなど情報交換を密に行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人の日頃の状態をノートに記入し、常に目を通してもらっている。それを受診時、往診時に主治医に提出している。日々の変化を記録し、往診、受診時の役に立たせている。看護記録があり、介護の連携に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	代表が常に利用者と家族、病院関係者との連携、相談業務に努めている。 主治医の先生が病院との太いパイプを持ち、力になってもらっている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	代表がターミナルケアについて前向きのため出来る限り取り組んでいる。家族の要望を聞き、相談しながら職員と協力しながらターミナルケアを行っている。	入居時に代表が重度化について説明を行い、状態に応じて医師が確認をしている。本人や家族の意向を踏まえ、段階的に家族、医師、代表、職員の連携を取り、安心して最期を迎えられるように支援している。家族は宿泊もできるようになっている。代表は職員の心のケアにも十分配慮している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、実技訓練については、定期的に行われていない。十分にされていない。応急手当の講習会に参加し、勉強している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が身につけているかはわからない。訓練は敵的に行っているが、回数は増やした方がよい。避難場所の把握に努めている。十分にされていない。	昼間を想定して消防署参加の火災の避難訓練、避難経路の確認、通報の仕方、入居者の避難誘導、消火器の取り扱い方等を定期的に行っている。地域の消防署との連携はとれている。災害時には、ガスコンロ、米、水、菓子等が準備されている。	昼間の避難訓練が行われているが、夜間を想定した避難訓練も実施されることを期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活上協和はあくし、臨機応変に対応している。プライバシー確保については個人ファイルにて厳重に保管してある。この利用者を尊重し言葉かけに気配りしている。	職員は常に入室の際にはノックし、声をかけてから入っている。トイレ誘導、入浴介助の時には、本人の気持ちを大切に考え、そっと声をかけることを心がけている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出切る限り希望を聞いて自己決定できるようにしている。十分に出来ていない。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り一人ひとりのペースを大切にケアをしている。散歩や外出等、個人の要求を重視し努めている。 利用者の体調を見て支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問の理美容が来所している。化粧品の購入をしている。声掛けをしながら、洋服選びに行ったり、身だしなみをほめていく。外出時、付き添い買い物してもらう。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者に出きる事をやってもらっている。調理の手伝い等。後片付けもスタッフと協力しながらやってくれる。本人の好きな物を聞いて献立を決めている。	献立は入居者の希望を聞きながら職員が立てている。下ごしらえ、配膳、後片付け等も一緒に行っている。野菜は、ホームの畑で収穫されたもので会話は、職員と入居者が同じテーブルを囲み楽しく食事をしている。時々おやつの手作りも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量については、食事チェック表にて管理している。栄養不足の利用者に対してエンシュアを摂取してもらっている。個人記録にて把握している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施している。定期的な視界の往診があり、口腔内のチェックをしてもらっている。義歯洗浄も声かけし行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレまで間に合わない人にはポータブルトイレを使用してもらっている。一人ひとりの排泄時間帯の把握に努めている。記録をとり、声掛けをしている。	トイレに誘導するときには、入居者のトイレに行きたいサインを見逃さず、立ち上がり手に差し手の歩行介助を行っている。排泄チェック表を使用して、入居者の状態に合わせ誘導することにより、トイレで排泄できるように支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師と相談し、服薬等で対応している。運動や散歩、水分補給、野菜の摂取を心がけている。排便チェックをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日(日曜日以外)の入浴を提供している。本人の希望を聞き入浴してもらっている。無理強いすることなく入浴していただいている。	入浴は日曜日以外は、毎日9:30～15:00の時間に入居者の希望を確認しながら入っている。入浴を嫌がる人には、本人の喜ぶ話題や好きなことを話しながら入浴を支援している。菖蒲、ゆず湯等を使用しながら季節感を楽しむ工夫を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない場合は傍らにいて身体に触れたり、寄り添って安心感を与えるよう支援している。夜間帯に眠って頂けるよう日中は離床を心がけている。夜間帯の見廻りを必ず行っている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフが病気や薬の内容、把握に努めている。薬局から出されている薬剤情報提供所に目を通すようにしている。薬を厳重に2回見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の楽しみである書道やカルタ鳥、卓球等を一人ひとりに行い、気分転換を図っている。掃除機かけや、畑の水やり、車椅子を押ししたりしての散歩等役割を与えて支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩が一番多く、天気や個々の身体状況に応じて時間や距離を考えている。一人ひとりがその日の希望により買い物したいといえば、スタッフが付き添い外出支援している。	一人ひとりの希望に添って喫茶店や買い物に出かけている。また、水族館、なばなの里、和太鼓鑑賞、バス日替わりツアー、外食、弁当を持って公園で食べるなど積極的に外出している。歩行困難な方には車いす等を利用し、戸外に出るよう支援している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	2人の方は自分で金銭管理をしている。入居者の希望があれば管理してもらっている。状況判断できない方が多く金銭はスタッフが預かるが必要に応じて使うことが出来ている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる方にはしていただいている。携帯電話が使用できる方には自由に使用していただいている。支援するまでには至っていない。ADLの関係上、現状は厳しい状況である。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	華や観葉植物、生き物などを設置し、利用者の落ち着ける空間作りに努めている。毎日綺麗に掃除している。換気に努めている。居室の入り口に季節に応じた自分の作品を飾ったり、手作りのカレンダーを掲げたりしている。季節感を感じる作品を作ったり、花瓶に華を生けている。	玄関や居間には観葉植物や季節の花が飾られている。金魚や犬を飼い入居者の心を癒している。居間は床暖房で、壁には入居者の作品や写真が掲示されている。生活感が感じられ、テレビを観るコーナーにはソファや座椅子がある等、居心地良く過ごせる工夫がされている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにて、談話されたり、貼り絵、塗り絵、歌を楽しんでいる。居室とリビングがいつでも行き来できるようになっている。基本的には本人の希望で過ごしているが、目が離せない方はスタッフの目の届くところにいてもらっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の気に入っている家具が持ち込めるため、落ち着けている。家具や家族の写真、仏壇等が置いてあり、心が和めるように工夫されている。空気清浄機、エアコンを設置している。	寝具、タンス、テレビ、仏壇、植物、家族の写真等の思いでの品々が持ち込まれ、本人の居心地の良さに配慮している。持ち込みの少ない人には、職員と本人が相談しながら一つずつ増やし、温かい雰囲気を出すよう努めている。ドアは鍵をかけることができ、かけている人もいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室がわかるように表札等を手作りし飾っている。廊下には手すりがあり、歩行困難な方でも安全に生活できるよう対応している。スタッフが本人の出来る事を把握し、掃除や洗濯干し、たたみ等を手伝ってもらい、自立した生活を送ってもらっている。エレベータを設置している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371100666		
法人名	(有)ほほえみグループホーム日陽		
事業所名	(有)ほほえみグループホーム日陽		
所在地	愛知県名古屋市港区南陽町西福田丸山21-1		
自己評価作成日	平成21年12月1日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル
所在地	愛知県名古屋市中村区則武1-13-9 チサンマンション第三名古屋1109号
訪問調査日	平成21年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別対応にてその人の希望を叶えている。駐車場の空き地を利用した畑で作物の栽培、収穫を手伝っていただいている。  
 医療機関との連携が取れている。その人の尊厳が保たれている。  
 自然が多い地域ということを活かし、四季の移り変わりを散歩を通して目で確かめることができる。  
 ある程度自立している方々には、日帰りバスツアーを企画し、実行している。  
 七夕、夏祭り、敬老会など各イベントには、地域の方や、華族の方に参加していただき地域密着へつながるよう努めている。  
 保育園が近くにあり、時々散歩で近くを通ってくださっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日陽の理念は玄関先の分かり易い所に掲げてあり、出勤前に見てから入るようにしている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア(踊り、大正琴、落研)や年1回の夏祭りを開催。 散歩時には挨拶を交わしている。 町内会役員の方々に交代で推進会議に参加していただいている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ、地域への理解は難しい。 代表が地域の講演に参加した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に推進会議を開催し、その内容を書類にて確認させてもらっている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区担当者と連絡を密に取っている。 連絡協議会の研修や集まり等へ積極的に参加している。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしているが、入居者の希望があれば、すぐに開けるようにしている。 ベッド柵の拘束について、本人の希望が無い限り行っていない。 身体拘束のマニュアルが事務所にある。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	代表や、2ユニット管理者が研修に行っている。 毎月の会議等で事象が起こり得ないよう時々話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に行ったことがあるスタッフはいる。区の担当者に来所していただき、話し合いや説明、指導を受けた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に代表が説明し、納得していただいている。利用者の不安や、家族の相談等来所された時に事務所や居室にて話を聞き、理解を深めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	反映されていると思う。意見、要望は代表が聞いた事柄など口頭や文書にて報告を受けている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議等で行い、反映されている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている。労働時間等話し合いをして良い環境にしている。月の休暇に希望休を取り入れている。手当てなどで給与水準を上げられるよう努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全員まで行っていない。研修会や勉強会に参加させてもらっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などで知り合った方と交流している。代表も交流している。管理者も他施設に訪問し、交流や施設外研修の相談をしたり、情報交換等している。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、受容している。個人記録に残し、ミーティング等で話し合いをし、情報の共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族に聞く機会を設け、情報提供書にて、既往歴や生活歴、現在の問題点などの家族の要望等を取り入れている。 体験入所や入所前に相談シートを使用し、家族との話し合いを設けている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要に応じて他のサービスの利用等を考えて、実行している。 主治医や、包括支援センター、認定調査員、区役所の担当者等意見を求めたりしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添うケアを心がけている。 利用者を家族の一員とした見方や、個人を大切に思う取り組み、居室を1戸の家と考え、リビングを会合場所のような感じにできるように取り組んでいる。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には無理の無いようにホームに来所していただけるよう病院受診は家族に行ってもらえる様にする等工夫をしている。 利用料の支払い時に来所していただいたり、誕生日や、母の日、父の日、敬老会など来所していただけるよう声掛けをしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方の来所、馴染みの場所への外出など行っている。 1度退所された方の来所もある。 慰問して下さる方に親戚の方もいる。 利用者同士の家族に知り合いがあり、談話したりしている。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	少人数の中にも好き嫌いがあることに気遣い、テーブルなどの並べ方、外出時の組み合わせなど考慮に入れている。		
22		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談等があれば、支援に努める。		
<b>、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ミーティング等で話し合いをしながら、検討し、把握に努める。病院受診を毎日希望される方でも往診があることで安心した生活が送れる事を説明などし落ち着いてもらっている。マッサージの往診を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から、情報提供書の作成を依頼し、生活歴、既往歴、などから把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報提供書を参考にし、ミーティング等にてその人の役割づくりを考え、その人が有する力の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで意見を聞き、アセスメントや、介護計画に役立てている。 毎月会議を開き、個々人の状況など話し合い、介護計画に反映している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送り時や申し送りノートを活用し、活かしている。 個人記録に記入したり、別紙にてその人の事象を記録し、介護者全員が把握できるよう努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問リハを取り入れたりしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方を活用している。歌や、踊り、大正琴、落語研究会による慰問があり、楽しんで過ごしていただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの方がカニエ診療所、森永Drの往診を受けていただき、先生も認知症の方の理解を深めてくださり、良い関係を築いている。 月2回の往診をしていただいている。 家族の意向も踏まえかかりつけ医や、往年の先生に診ていただけるよう配慮している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護記録があり、介護職との連携に役立てている。 准看護師による健康管理を日々行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主に代表が家族との情報交換を密にしスタッフに伝えている。 森永Drと相談しながら、助言や指示を受けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアは難しい問題だが、出来る限りホームでとの気持ちがある。 家族の意向を確認しながら主に森永Drと相談し、密に連携している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会は何度か出席したが、全員ではない。 ホームに緊急時等のマニュアルがある。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	全職員が身につけているかは分からない。 定期的に火災時の避難、消化訓練を行っている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	当たり前のことだが、全職員かは疑問。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り、希望を聞いて自己決定できるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り、一人ひとりのペースを大切にケアをしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容が毎月来所。 化粧品用品(その人が長年愛用している物)の購入をしている。 利用者と一緒に買いに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は限られるが一緒に準備している。共同生活の場、家族のような係わりの観点から一緒に食事をし、片付けを行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスやカロリー計算は出来ないが、Drにメニュー表を見ていただき、評価を得ている。水分量は成人の平均摂取量に近くなるよう気遣い、入浴後、おやつ時間(1日2回)毎食事時、リビングで過ごされている間お茶を出し、常に飲めるようしている。その人に合わせた食事量になるよう努めている。1日の食事量はスタッフが把握できるようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをしていただき、定期的に歯科往診を受け、口腔内のチェックをしていただいている。起床時の口腔ケアをしている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を記録し把握に努めている。声かけによる誘導をしている。パットなど汚れていた場合すぐに交換し、汚れていない場合は、排泄を促すようしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動や、飲食物で予防に取り組んでいる。医師と相談し、薬による対応もしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外は毎日入浴をしていただいている。希望に沿って入浴していただいている。入浴を楽しんでいただけるよう午前午後を使い入浴時間に余裕を持たせている。個別で入浴してもらうことからスタッフとの個別の対応時間にもなっている。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に応じた睡眠時間、生活習慣を把握し、安眠につなげている。眠剤を使わないような対応を心がけている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病気や薬の内容の把握に努めている。看護師や、薬剤師の方に処方を確認したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別ケアを行い本人の楽しみになっている。(外出など) 出来る方には役割を持っていただき、実行している。(日付変更、カレンダーめくり、水遣り)		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に出かけることを心がけ、月1回の外出の機会を設けている。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる方にはしていただいている。 外出時等お金を持って行き、支払いなど使用する機会を持つようにしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方へ支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の写真や作品を飾り生活感や季節感を出していると思う。 朝の掃除の時間帯は窓を開け外の空気を取り入れ、窓を開けられる季節や時間によって空気の入替えを行い季節感を損なわない工夫をしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとり居室で過ごせたり、気の合った同士で居室やリビングで談話したり、自由にされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用していたもの、馴染みのあるものなど置いて頂いているので、安心した生活空間を提供している。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来ること」は出来る限りご自分でしていただき、声かけで出来るなら声を掛けなるべくその人の「出来る事」を継続できるよう努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 (有)ほほえみグループホーム日陽

## 目標達成計画

作成日: 平成 22年 1月 7日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は2ヶ月毎に開催されているが会議議事録が作成されていない。議事録を家族や、メンバー、スタッフが知ることができるよう取り組みたい。	議事録の作成。	会議後、議事録を作成し、開示する。 3ヶ月毎の家族会議事にて家族に開示する。 スタッフには申し送りノートに添付し開示していく。	1ヶ月
2	6	身体拘束の内容や弊害について理解されているので、今後は安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するための工夫を職員で話し合い、施錠が常態化しないことを期待したい。	玄関の開放。	午前10時～午後3時ごろまで玄関に鍵を掛けない。	1ヶ月
3	35	昼間の避難訓練が行われているが、夜間を想定した避難訓練も実施されることを期待したい。	昼間、夜間の避難訓練の実施	年2回の昼間時の避難訓練に加え年1回、夜間の避難訓練を実施していく。	3ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。